

## 髄膜炎菌

## 侵襲性髄膜炎菌感染症ってどんな病気？

髄膜炎菌が原因で起こる感染症で、くしゃみなどの飛沫感染により伝播し、気道を介して血中に入り、さらに血液や髄液にまで侵入することにより、敗血症や髄膜炎を起こします。感染すると高熱や皮膚、粘膜における出血斑、関節炎等の症状が現れ、頭痛、吐き気、精神症状、項部硬直などの髄膜炎症状を呈します。早期診断が難しい一方で早期に適切な治療を行わないと急速に悪化し致死率の高い感染症です。乳幼児と10代後半に発症のピークがあります。治療には抗菌薬を用いますが、予防として日本では2015年5月より4価髄膜炎菌ワクチンが使用できるようになりました。

## 接種を受ける時期と間隔は？

## ●対象者

接種年齢は決まられていません。  
(国内臨床試験は、2歳～55歳を対象に実施されていることから、2歳未満の小児等に対する安全性および有効性は確立していません。詳しくは、かかりつけ医に相談してください。)

## ●回数

1回の筋肉内注射

## 髄膜炎菌ワクチンの副反応は？

●主な副反応は全身症状として筋肉痛、倦怠感、頭痛、局所症状として注射部位の疼痛などが報告されています。

## ●接種日

